

平成21年5月20日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18252005
 研究課題名（和文） グローバル化と開発途上国のガバナンス構築-アンデス諸国の比較研究-
 研究課題名（英文） Globalization and Governance Building in Developing Countries:
 A Comparative Study of the Andean Countries
 研究代表者
 村上 勇介（Yusuke Murakami）
 京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
 研究者番号：70290921

研究成果の概要：発展途上地域で最も早い時期から「民主化」と市場経済化を経験したラテンアメリカにおいて、近年、政治が最も不安定化しているアンデス諸国（ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラの5ヶ国）に関し、現地調査を踏まえつつ、ポスト新自由主義の時代に突入したアンデス諸国の現代的位相を歴史経路や構造的条件を重視しながら解明したうえで、近年の動向や情勢を分析した。そして、5ヶ国を比較する研究を行い、対象国間の共通点と相違点を洗い出し、事例の相対化を図り比較分析の枠組を検討した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	11,600,000	3,480,000	15,080,000
2007年度	11,500,000	3,450,000	14,950,000
2008年度	9,200,000	2,760,000	11,960,000
総計	32,300,000	9,690,000	41,990,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学（3501）

キーワード：民主主義、ガバナンス、経済開発、社会変動、社会的共存、制度、文化的多様性、アンデス諸国

1. 研究開始当初の背景

(1) ラテンアメリカは、他の発展途上地域に先駆けて、1970年代後半からグローバル化の一環でもある「民主化」と市場経済化が進んだ。それは、マクロ経済面での安定と発展や地域統合の促進、民主的な政治の枠組の維持、それまで政治参加を認められなかったあるいはしなかった人々による新たな政治勢力の台頭、文化的多元性の承認などをもたらした。だが他方、貧困に加え、民族（先住民、混血など）、階層、地域といった側面において厳然と存在する格差など、19世紀初頭の植民地からの独立以来、ラテンアメリカが抱え

てきた構造的問題を悪化させ改めて浮き彫りにした。そこでは、多文化共生やグローバル化といった新たな世界的潮流に曝される中、常に問われてきた国家建設、国民形成の課題が、今さらのように提起されている。

また、伝統的に脆弱な国家の機能が向上しないか低下し、政党や組合、政治・社会運動など中間媒介組織の変容と再編が生じるとともに、麻薬問題や汚職の蔓延、犯罪なども助長されて、社会的紐帯の弛緩と社会紛争の激化が起こり、90年代以降、代表制民主主義の枠組みが揺らいでいる。政治が流動化し、民主的なガバナビリティの構築が重要な課

題として浮上しているのである。

(2) さらに、構造的な問題を含む社会経済面での悪化は、新自由主義路線の見直しを迫る事態を招き、それを支持する勢力が多数派となるポスト新自由主義の時代が既に始まっている。1990年代の終わりから、いわゆる左派政権が誕生する例が増加している事実は、そうした状況を端的に反映している。

(3) アンデス諸国（ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラの5ヶ国）は、前記のようなラテンアメリカ一般の情勢が最も先鋭かつ象徴的に発現している地域で、近年の不安定化が顕著である

2. 研究の目的

本研究の目的は、南米アンデス諸国を事例に、グローバル化の下で不安定化する開発途上地域においてガバナンス（良好統治）を構築するための諸条件と制度を解明することである。そのための基礎作業として不安定化するメカニズムと現状の調査を実施するとともに、比較研究をつうじて事例分析結果の理論化を探究する。最終目標はガバナンス構築の理論化にあるが、本研究課題では、事例の綿密な比較研究を実施し、その結果と分析枠組を検証した後、他地域との比較を行い、一般化への方向性を探る。

具体的には、次の調査研究を行う。

(1) 1980年代からの民主化と市場経済化によって生じた変動と不安定化の現状について調査分析を実施する。

(2) 共通した枠組を用いてアンデス5ヶ国を比較研究し、不安定化の原因や背景、構造的な条件について、共通性と相違点を検証する。政治、経済、社会・文化にわたる重層的な比較研究をつうじて、各国の特質とアンデス諸国全体としての共通した特徴や条件を明確にする。そして、ガバナンス構築をめぐる基礎条件や萌芽の動きについて比較分析を実施する。

(3) 他地域との比較を行い、南米5ヶ国の比較研究によって得られた調査研究結果、ならびにその際に用いた比較の枠組を検証する。東南アジアや中東欧などとの比較検証を実施し、事例研究の成果ならびに総合的アプローチに基づいた比較分析枠組の理論化を探究する。

3. 研究の方法

本研究の研究期間は3年で、次の3つの段階からなっていた。

(1) 第1段階は、1980年代からの民主化と市場経済化によって生じた変動と不安定化の現状について、総合的なアプローチによる学際的な調査研究を研究対象国において実施した段階である。これは、平成18年度から平成19年度の前半までの時期にあたる。構造的な諸要因との関連に焦点をあて、不安定化の背景を各国ごとに解明した。またその中で生じている内発的なガバナンス構築に向けての基礎条件や萌芽の動きについても着目した。

第1段階の調査研究は、研究対象国を二つのグループに分けて実施した。2つのグループとは、先住民人口の割合が大きく政治勢力が少数分裂化しているボリビア、エクアドル、ペルーの第1グループと、混血を主とし、20世紀後半には二大政党制の下で安定していたコロンビアとベネズエラの第2グループである。分析枠組の点検を実施したほか、各グループ内での比較研究によって、対象国間の類似性と相違点を解明した。

(2) 第2段階は、平成19年度後半で、アンデス諸国に関する調査研究をまとめる段階である。前述の2つのグループに分かれて実施した調査研究の成果を、グループ間で比較し、アンデス諸国全体の類似性と相違点を検証した。その成果をもとに、開発途上地域における内発的なガバナンス構築のための諸条件と制度に関し考察した。また、比較分析枠組についても、汎用度を高めるよう検討をくわえた。

(3) 第3段階は、平成20年度にあたり、アンデス諸国に関する補足調査の実施と、他地域との比較による理論化の探求に従事した。補足調査は、アンデス諸国に関する調査の成果をまとめる第二段階（前年度後半）で発見された必要性に応じて実施された。補足調査の結果を受け、アンデス諸国の事例に基づく研究成果と分析枠組を最終的に完成させた後、ラテンアメリカ以外の地域との比較研究を行い、その一般化の方向性を探究した。

(4) 初年度と最終年度にシンポジウム、2年目にワークショップを開催し、本件研究の成果発表の機会とした（シンポジウム「ポスト・ワシントンコンセンサス期のラテンアメリカアンデス諸国の政治社会変動と自然資源管理」平成19年1月26日～27日、ワークショップ「現代アンデス諸国の政治動向」平成20年1月26日、シンポジウム「ポスト新自由主義時代のアンデス諸国—社会変動の比較研究—」）。また、学会発表や論文、研究書の発行を通じて、本件研究の成果を公表した。研究書の1冊は、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）学術図書（課題番

号：205110)を得て最終年度末に発行された。

4. 研究成果

(1) アンデス諸国は、その歴史展開の点で幾つかの点で共通項を持っている。例えば、スペイン植民地を経て19世紀初頭の独立では、現在のベネズエラ出身の指導者ボリバルが重要な役割を果たした。

経済面では、天然資源や農産物など第一次産品の生産が中心で、その基本的な構造は植民地時代から今日に至るまで大きく変わっていない。20世紀に入ると、他のラテンアメリカの国と同様に製造業の振興が国家によって図られたものの、メキシコや、南部地域(Cono Sur)にあるアルゼンチン、ブラジル、チリ、ウルグアイほどには発展しなかった。

(2) 他方、アンデス諸国の間には相違点も存在する。それは、中央アンデスと呼ばれるボリビア、エクアドル、ペルーと、北部アンデスのコロンビア、ベネズエラとの間の違いとして観察されてきた。まず、人口、文化、社会における先住民の存在に違いがある。中央アンデス諸国は、スペイン人による征服前に先住民の文明が興亡した主要舞台であった地域で、先住民の存在が北部アンデス2ヶ国よりも大きい。ラテンアメリカ全体の中でも、メキシコ、グアテマラと並んで、先住民人口が多い国々である。

また、歴史展開の点でも中央アンデスと北部アンデスでは異なっている点がある。それは、19世紀終わりから20世紀初めにかけて発展した第一次産品輸出を背景に成立した寡頭支配(oligarquia)、つまり「財産と教養を持った」少数の限られた人々によるのみ参加が認められた政治に対し、それから排除されていた中間層や下層の人々が1920年代前後以降に、いわば下から挑戦する過程で見られた。

(3) コロンビアとベネズエラでは、激しい政治紛争の中から、50年代の終わりに、政権担当者の選出や利益配分を含む政治の意思決定をめぐる方法やルールに関する合意が主要な勢力の間で生まれ、その後実践が重ねられるという政治の制度化が進み、それを基にした二大政党制による民主主義が定着した。

ただし、この民主主義は、二大政党の幹部がカウディョ(caudillo、政治ボス)として君臨する寡頭支配的な色彩が強く、市民による自発的結社が下から活力を与える民主主義の理想からはかけ離れていた。それでも、二大政党制による政治の制度化は、60年代から70年代にかけては安定をもたらし、植民地時代以来の構造問題を根本的に解決する

ものではなかったにせよ、製造業がより発展したメキシコやアルゼンチン、チリ、ブラジル、ウルグアイと同程度の生活水準の実現を可能にした。特に、ベネズエラの水準はアンデス諸国では抜きん出ている。

(4) これに対し、中央アンデス諸国では、寡頭支配勢力と中間層や下層の人々に基盤を置く勢力との間の対立が政治、特に民主政治の制度化と安定化に繋がらなかった。政治が紛糾し、軍が介入することも珍しくなかった。ただ、ラテンアメリカの他の軍事政権と異なり、中央アンデス三ヶ国に特徴的なのは、伝統的には寡頭支配層の側に立っていた軍(あるいはその一部)が、製造業の未発達に象徴されるように、文民勢力による国家開発があまり進捗しない状況を前に、政権に就いて国内改革を推進し国家を中心とする発展を促そうとしたことである。中央アンデスでは改革が軍人の手で進められ、それまでの寡頭支配を終焉させた。しかし、構造的諸問題を抱えた社会を抜本的に変革するまでには至らなかった。同時に、寡頭支配に代わる新たな持続的政治秩序を構築することにも失敗した。

(5) 二大政党制による民主的な枠組による政治にせよ、軍事政権による改革政治にせよ、国内市場向けの製造業新興を重要な柱とする国家中心の発展路線を推し進めた結果、財政赤字や累積対外債務などマクロ経済面での不均衡が拡大し、インフレも亢進し始めた。既に指摘した様々な面での格差構造を背景とする国内市場の狭隘さの限界により、国家主導型経済発展路線が1960年代までに既に行き詰まっていた。加えて、70年代の石油危機による世界不況など国際的な経済危機の影響も受けて経済が不安定化した。

そうした中で軍事政権が動揺し民政移管が起きたのであった。79年のエクアドルの民政移管は、前年のドミニカ共和国での公正な選挙の実施に続くラテンアメリカにおける民政移管の二例目で、以後、ペルーをはじめとするラテンアメリカ諸国で民政移管が実現した。世界的には、70年代半ばに南欧で始まり、ラテンアメリカに到達した後、アジアやアフリカへと伝播した「民主化第三の波」の一部であった。

(6) 経済が不安定な状態は1980年代を通じてラテンアメリカ全体で見られ「失われた10年」などと呼ばれた。アンデス諸国でも二度の国内総生産成長率が低下し、コロンビアを除く4ヶ国がマイナスを記録している。

経済回復のため、他のラテンアメリカ諸国と同様、1980年代以降、アンデス諸国も国家の役割を縮小し市場経済原理を導入する新

自由主義的な経済改革を進めた。特に、80年代後半以降は、新自由主義路線が支配的となった。ただし、アンデス諸国全体の経済改革度は、南部地域やメキシコ、中米諸国に及ばないのみならず、ラテンアメリカ全体の平均を下回っていた。とりわけ、ベネズエラでは、新自由主義的な経済改革は他の国ほどには進まず、ラテンアメリカの中でも最低の水準にとどまった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計24件)

- ①村上勇介・遅野井茂雄「序論—現代アンデス政治の迷宮に分け入る—」村上勇介・遅野井茂雄編『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索—』明石書店、2009年、11-47ページ、査読有。
- ②村上勇介「中央アンデス三ヶ国の政党—制度化の視点からの比較研究—」村上勇介・遅野井茂雄編『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索—』明石書店、2009年、87-136ページ、査読有。
- ③村上勇介「政党崩壊あるいは『アウトサイダー』の政治学—ペルーのフジモリとベネズエラのチャベスの比較分析—」村上勇介・遅野井茂雄編『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索—』明石書店、2009年、161-196ページ、査読有。
- ④村上勇介「フジモリ後のペルー政治—小党分裂化と進まない制度化—」村上勇介・遅野井茂雄編『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索—』明石書店、2009年、365-403ページ、査読有。
- ⑤Murakami, Yusuke, "Política peruana después de Fujimori: fragmentación política y poca institucionalización". En Yusuke Murakami (ed.), *Tendencias políticas actuales en los países andinos*. CIAS Discussion Paper, No. 5, Kyoto, Japón: Center for Integrated Area Studies, 2008, pp.41-63, 査読無。
- ⑥村上勇介「大統領辞任後のフジモリとペルーをめぐる情勢」『季刊民族学』No.124、2008年、64-68ページ、査読無。
- ⑦Murakami, Yusuke, "Putnam's Social Capital Theory and Democracy in Peru: An Analysis Based on the Studies about the Political Attitudes and Participation of Popular Sectores in Lima". In Tomomi Kozaki, Naoya Izuoka, and Yuko Honya (eds.), *Civic Identities in Latin America?* Tokyo: Keio University Press, 2008, pp.165-207, 査読有。
- ⑧村上勇介「ペルーの2006年選挙の分析」『地域研究』Vol.8、No.1、2008年、199-224ページ、査読有。
- ⑨村上勇介「ポスト・ワシントンコンセンサス期を迎えたラテンアメリカの新たな模索」『地域研究』Vol.8、No.1、2008年、146-157ページ、査読有。
- ⑩Murakami, Yusuke, "Partidos políticos de Bolivia, Ecuador y Perú: un estudio comparado." En Yusuke Murakami (ed.), *Después del Consenso de Washington: dinámica de cambios político-económicos y administración de recursos naturales en los países andinos*. CIAS Discussion Paper, No. 2, Kyoto, Japón: Center for Integrated Area Studies, 2007, pp.59-76, 査読無。
- ⑪狐崎知己「グアテマラにおけるマヤ民族虐殺」松村高夫・矢野久編『大量虐殺の社会史』ミネルヴァ書房、2007年、査読無。
- ⑫狐崎知己「中南米における人間の安全保障」絵所秀紀編『貧困削減と人間の安全保障』国際協力出版協会、2007年、査読無。
- ⑬Kozaki, Tomomi, and Yusuke Nakamura, "Human Security in Post-Genocide Guatemala: Toward Collective Reparation and Reconstruction at the Micro and Meso Levels", *CGS Bulletin*, Volume 2, 2005/2006, pp.70-93, 査読無。
- ⑭細谷広美「インカ表象と間テクスト性—歴史、記憶、イデオロギー」関雄二、染田秀藤編『他者の帝国—インカはいかにして「帝国」となったか—』世界思想社、2008年、301-324ページ、査読無。
- ⑮細谷広美「アンデス地域におけるキリスト教の布教と歴史表象—歴史の連続性と断絶」坂井正人・鈴木紀・松本栄次編『世界地理講座14 ラテンアメリカ』朝倉書店、2007年、401-408ページ、査読無。
- ⑯Yasuhara, Takeshi, "Manufacturing sector performance and the balance of payments-constrained growth in Mexico," *Problemas del Desarrollo*, Vol.39, No.152, 2007, pp.29-46, 査読有。
- ⑰安原毅「NAFTA、メルコスル以後のラテンアメリカ諸国」二村久則、山田敬信、浅香幸枝編『地球時代の南北アメリカと日本』ミネルヴァ書房、2006年、149-171ページ、査読無。
- ⑱安原毅「地域統合の意義と開発モデルの再検討—メキシコとブラジルにおける貿易と産業構造の視点から—」『ラテンアメリカ研究年報』No.26、2006年、84-115ページ、査読有。
- ⑲安原毅 "Exportación y la Productividad del sector manufacturero, en el régimen de la liberalización comercial: el caso de México y Brasil." 『ラテン・アメリカ研究』

カ論集』No. 40, 2006, pp. 115-134, 査読有.

- ⑩ 遅野井茂雄・宇佐見耕一「ラテンアメリカの左派政権」遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権—虚像と実像—』アジア経済研究所、2008年、3-33ページ、査読有。
- ⑪ 遅野井茂雄「ボリビア・モラレス政権の『民主的革命』—先住民、社会運動、民族主義—」遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権—虚像と実像—』アジア経済研究所、2008年、69-103ページ、査読有。
- ⑫ 遅野井茂雄「ポスト新自由主義の開発政治の収斂と分岐—中央アンデス諸国」村上勇介・遅野井茂雄編『アンデス諸国の政治変動—カバナビリティの模索—』明石書店、2009年、51-86ページ、査読有。
- ⑬ 小森宏美「地域アイデンティティの形成」、『地域研究』Vol. 8, No. 1, 100-105ページ、査読有。
- ⑭ Hataya, Noriko, “The Illusion of Community Participation: Experience in the Irregular Settlements of Bogotá”, a thesis submitted to University College London for the degree of Doctor of Philosophy, 2007.

[学会発表] (計17件)

- ① 村上勇介「ペルーにおける政治意識と政治参加—政治の制度化の観点から—」日本ラテンアメリカ学会第29回定期大会、2008年6月7日、筑波大学。
- ② 村上勇介「ペルーにおける(全国・広域レベルの)先住民運動の未形成—その政治的背景—」日本ラテンアメリカ学会西日本部会研究会、2007年12月8日、京都外国語大学。
- ③ 村上勇介「ペルーの2006年選挙」ラテン・アメリカ政経学会第43回全国大会、2006年10月29日、神戸大学。
- ④ 狐崎知己「ポスト・ジェノサイド社会を生きる人たち—和解のための諸条件とオーラリティの役割—」日本オーラル・ヒストリー学会第6回年次大会、2008年10月12日、慶応義塾大学三田キャンパス。
- ⑤ 狐崎知己「地方公共政策の改善を通じたポスト・ジェノサイド社会の再編—グアテマラ和平協定とガバナンス—」日本ラテンアメリカ学会第29回定期大会、2008年6月8日、筑波大学。
- ⑥ 狐崎知己「グアテマラ和平協定後の先住民族と政治・投票行動における合理性」日本ラテンアメリカ学会第29回定期大会、2008年6月7日、筑波大学。
- ⑦ Yasuhara, Takeshi, “Productividad de

la industria manufacturera en México, bajo el teorema del desarrollo restringido por la balanza de pagos,” Red Euro-latinoamericana de Estudios sobre el Desarrollo Económico, 2008. 05. 21, Universidad Autónoma Metropolitana-Iztapalapa, México.

- ⑧ 安原毅「日本におけるメキシコ経済研究の動向」日本ラテンアメリカ学会第28回全国大会、2007年6月3日、南山大学。
- ⑨ Yasuhara, Takeshi, “Exports Promotion and the Productivity of the Manufacturing Sector in Mexico and Brazilian Interpretation of the TFP from the demand side view point,” International Post Keynesian Conference, 2006. 09. 14, University of Missouri, Kansas.
- ⑩ 遅野井茂雄「ボリビア・モラレス政権の改革の現在」日本ラテンアメリカ学会第29回定期大会、2008年6月8日、筑波大学。
- ⑪ 遅野井茂雄「ラテンアメリカにおけるポピュリズムの再登場」日本政治学会2008年度総会・研究大会、2008年10月11日、関西学院大学。
- ⑫ 遅野井茂雄「ペルー、2006年選挙をめぐる」日本ラテンアメリカ学会第27回定期大会、2006年6月4日、アジア経済研究所。
- ⑬ 遅野井茂雄「先住民政権の1年—『ボリビアの再興』はどこまで進んだか—」日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会、2006年、上智大学。
- ⑭ 新木秀和「エクアドルのバナナ産業における新しい動向」日本ラテンアメリカ学会第28回定期大会、2007年6月2日、南山大学。
- ⑮ 新木秀和「大統領選挙から見たエクアドル情勢」日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会、2006年12月16日、上智大学。
- ⑯ 後藤雄介「Americasにおける「混血」論の乱反射・領有・異種混淆」日本アメリカ史学会第3回年次大会、2006年9月16日、専修大学。
- ⑰ 幡谷則子「紛争地域での草の根開発と和平構築運動」日本ラテン・アメリカ政経学会第44回全国大会、南山大学。

[図書] (計15件)

- ① 村上勇介・遅野井茂雄編『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索—』明石書店、2009年、440ページ。
- ② Murakami, Yusuke (ed), *Tendencias políticas actuales en los países andinos*. CIAS Discussion Paper, No. 5, Kyoto, Japan: Center for Integrated Area Studies, 2008, 63p.

- ③ Murakami, Yusuke, *Perú en la era del Chino: la política no institucionalizada y el pueblo en busca de un salvador*. Ideología y política 27, Lima: Instituto de Estudios Peruanos y Center for Integrated Area Studies, 2007, 715p.
- ④ Murakami, Yusuke (ed.), *Después del Consenso de Washington: dinámica de cambios político-económicos y administración de recursos naturales en los países andinos*. CIAS Discussion Paper, No. 2, Kyoto, Japón: Center for Integrated Area Studies, 2007, 122p.
- ⑤ Tomomi Kozaki, Naoya Izuoka, Yuko Honya (eds.), *Civic Identities in Latin America?* Tokyo: Keio University Press, 2008.
- ⑥ 遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権—虚像と実像—』アジア経済研究所、2008年、347ページ。
- ⑦ 新木秀和編『エクアドルを知るための60章』明石書店、2006年、384ページ。
- ⑧ 小森宏美『現代エストニアの政治と歴史意識』三元社、2009年、261ページ。
- ⑨ 小森宏美・原聖編著『ヨーロッパのナショナリティとテリトリアリティ』京都大学地域研究統合情報センター、2009年、81ページ。
- ⑩ 小森宏美・仙石学・林忠行『ポスト社会主義諸国政党・選挙ハンドブック』京都大学地域研究統合情報センター、2009年、54ページ。
- ⑪ 後藤雄介『語学の西北—スペイン語の窓から眺めた南米・日本文化模様—』現代書館、292ページ。
- ⑫ 佐野誠『「もうひとつの失われた10年」を超えて—原点としてのラテン・アメリカ—』新評論、2009年、299ページ。
- ⑬ 二村久則・山田敬信・浅香幸枝編『地球時代の南北アメリカと日本』ミネルヴァ書房、2006年、222ページ。
- ⑭ 山本博之編『民族の政治は終わったのか?—2008年マレーシア総選挙の現地報告と分析—』日本マレーシア研究会、2008年、171ページ。
- ⑮ 山本博之『脱植民地化とナショナリズム—英領北ボルネオにおける民族形成—』東京大学出版会、2006年、369ページ。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 勇介 (MURAKAMI YUSUKE)
 京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
 研究者番号：70290921

(2) 研究分担者

- 狐崎 知己 (KOZAKI TOMOMI)
 専修大学・経済学部・教授
 研究者番号：70234747
- 細谷 広美 (HOSOYA HIROMI)
 神戸大学・国際文化学部・准教授
 研究者番号：80288688
- 安原 毅 (YASUHARA TSUYOSHI)
 南山大学・外国語学部・教授
 研究者番号：70247667
- 柳原 透 (YANAGIHARA TORU)
 拓殖大学・国際開発学部・教授
 研究者番号：00230269
- 重富 恵子 (SHIGETOMI KEIKO)
 都留文科大学・文学部・専任講師
 研究者番号：60405074
- 遅野井 茂雄 (OSONOI SHIGEO)
 筑波大学・人文社会科学部・教授
 研究者番号：60257441
- (3) 連携研究者
- 新木 秀和 (ARAKI HIDEKAZU)
 神奈川大学・外国語学部・准教授
 研究者番号：80276039
- 小森 宏美 (KOMORI HIROMI)
 京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
 研究者番号：50353454
- 後藤 雄介 (GOTO YUSUKE)
 早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授
 研究者番号：60296374
- 佐野 誠 (SANO MAKOTO)
 新潟大学・経済学部・教授
 研究者番号：70226041
- 幡谷 則子 (HATAYA NORIKO)
 上智大学・外国語学部・准教授
 研究者番号：00338435
- 二村 久則 (FUTAMURA HISANORI)
 名古屋大学・国際開発研究科・教授
 研究者番号：30156963
- 箕輪 真理 (MINOWA MARI)
 筑波大学・人文社会科学部・准教授
 研究者番号：30344857
- 山本 博之 (YAMAMOTO HIROYUKI)
 京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
 研究者番号：80334308
- 山崎 圭一 (YAMAZAKI KEIICHI)
 横浜国立大学・経済学部・教授
 研究者番号：10282948
- 山脇 千賀子 (YAMAWAKI CHIKAKO)
 文教大学・国際学部・准教授
 研究者番号：40302343